

東板橋体育館改修基本計画及びパブリックコメントの結果について

東板橋体育館の改修については、平成29年9月に「中間のまとめ」としてその基本的な考え方を報告したところであるが、その後、パブリックコメントの実施等による区民意見を踏まえ「東板橋体育館改修基本計画（以下「改修基本計画」と言う。）」を策定したので、その概要について以下のとおり報告する。

1 はじめに（策定の目的）

本改修基本計画は、植村冒険館との複合化や前面緑地（加賀西公園）も含めた改修設計に向けた全体的な整備方針を定めるために策定された。

2 現状（既存施設）の課題

(1) 現状の大きな課題

課題1	老朽化している設備の更新
課題2	配置の変更によるスペースの有効活用
課題3	植村冒険館との複合施設化
課題4	ユニバーサルデザインへの対応
課題5	新たな機能の検討

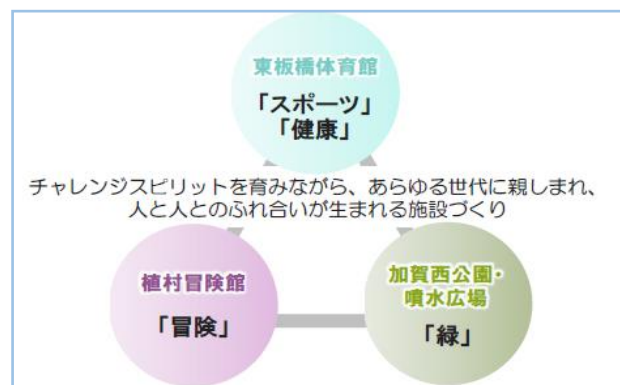
(2) 施設劣化度診断調査

コンクリート強度等は良好であり、目標耐用年数は「80年程度」と判定されたため、今後50年程度、建物を使用することを前提に改修の検討を行うものとした。

3 施設計画

(1) 改修後のあるべき姿

改修基本計画は、改修後の東板橋体育館が、スポーツ・健康・冒険・緑といった要素が融合し、人々のチャレンジスピリットを育みながら、あらゆる世代に親しまれ、人と人とのふれ合いが生まれる施設となることを目指している。



(2) 整備方針

整備方針1 体育館としての機能を向上させた健康づくり拠点の整備

整備方針2 チャレンジする心を育てる施設の整備

整備方針3 緑に囲まれ人と人がふれ合う憩いの場の整備

(3) 施設の更新

アリーナ、プール、エントランスホール、トレーニング室等の既存施設については、老朽化している設備の更新と仕様の向上を図り、安心して利用できる快適な空間としていく。

(4) 施設ゾーニング計画

施設ゾーニングについては、植村冒険館の要素が各階に分散し、より体育館との融合効果が期待できる下図のようなゾーニング案を基本とする。



(5) 設備の更新

空調や給排水等の機械設備、電力や通信等の電気設備は改修にあたり必ず更新しなければならない。これらの設備については、省エネルギー・環境保護・長寿命化に配慮し、維持管理のしやすさを確保しつつ、ライフサイクルコストの低減を図る。

(6) 新たに整備を行う諸室

区分	新たに整備する諸室・スペース
体育館	●カフェ (※) ●健康づくりの拠点 (※)
植村冒険館	●常設展示室 (新設) ●展示コーナー (各フロア) ●事務室 ●倉庫



エントランスでの展示イメージ(1階)



カフェでの展示イメージ(1階)



常設展示室の展示室内イメージ(3階)

※カフェ、健康づくりの拠点については、設置スペース等について引き続き検討

(7) 周辺施設との連携

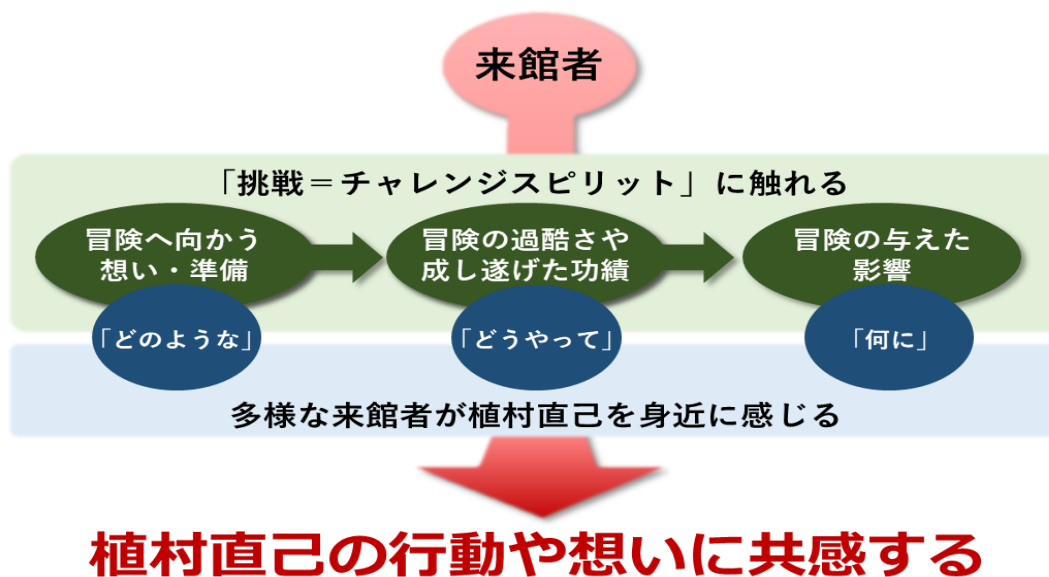
東板橋体育館の付近には、東板橋公園（こども動物園）、東板橋図書館のほか、史跡公園の予定地もあり、今後、体育館を中心とした緑のネットワークの形成によるジョギングコースの再整備、バス停留場の設置も含めた交通ネットワークの整備、近隣地区の魅力を表現するネーミングなど、周辺施設との連携について検討していく。

4 展示計画（植村冒険館）

(1) 展示コンセプト

多様な人々が植村直己の「チャレンジスピリット」に触れ、共感につなげる

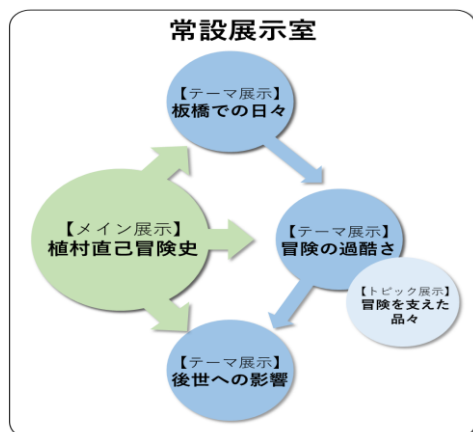
植村直己の冒険や精神を次世代・多世代へと継承するとともに、現代を生きる人々（来館者）が共感を抱き、自身のチャレンジスピリットを持つことを目的とする。



(2) 展示室

① 常設展示室

「植村直己冒険史」を中心に、植村直己の冒険・挑戦の足跡に俯瞰的に触れることができる常設展示室を整備する。



常設展示室の展示イメージ例

② 企画展示室

年4回程度の企画展示が開催できるような可動式展示ケースや繰り返し活用が可能なパネルなどで構成する。

③ 展示室以外での展示

複合化に伴い、エントランスやカフェなどの展示室以外においても、植村冒険館の内容だけではなく、体育館利用者への情報提供にも活用が可能な映像装置等を活用した展示を行う。また、各フロアにも更新性の高いサテライト展示を行い、植村冒険館の認知度向上や来館モチベーションの向上を図る。

5 公園・植栽計画

(1) 現況の課題

東板橋体育館に隣接する加賀西公園は、体育館前面駐輪場の自転車が目立ち、木の根により不陸が生じているなど、スペースが十分に活かされていない状況である。

(2) 整備・改修計画

①駐輪場の整備、②噴水の撤去、③広場の不陸調整、④桜の根上がりと踏圧による踏み固め対策、⑤境界フェンスの撤去

6 複合施設の管理・運営

整備後の東板橋体育館は、設備の大部分を占有する東板橋体育館が、親館として植村冒険館を含めた施設・設備を管理するものとする（冒険館の展示、内装、所蔵品を除く）。

また、運営については、東板橋体育館は指定管理者が、植村冒険館は植村記念財団がそれぞれ運営にあたるものとする。

7 整備工程計画

改修基本計画で想定している事業スケジュールは、最短で進行した場合、下図のとおりとなる。今後は、「公共施設等の整備に関するマスタープラン」に基づく個別整備計画と整合を図りながら、東板橋体育館、植村冒険館とも最短で平成33年度中の利用開始を目指していく。

		平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
		4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1	4 7 10 1
建築	設計	基本・実施設計			
	工事			工事	準備 供用開始
展示	計画・設計	基本計画	設計・制作		
	工事				工事搬入 供用開始
公園	設計	基本・実施設計			
	工事			工事	準備 供用開始

【参考】

東板橋体育館改修基本計画(中間のまとめ)に対するパブリックコメントの結果について

- 1 募集期間：平成29年10月10日（月）～10月29日（日）
- 2 件数：7件（4人・1法人）

パブリックコメントの意見とこれに対する区の考え方

No	意見の概要	区の考え方
1	時間帯によつての柔軟な使用に対応し、100名程度が利用できる会議室スペースを確保してほしい。	東板橋体育館には、現在、定員84名の第一会議室がありますが、改修基本計画では、最大で定員50名程度の会議室を整備する計画となっています。限られたスペースの中で、定員100名程度の会議室を創出することは困難な状況ですが、施設改修後に利用者ニーズや利用率について注視していきます。
2	区の地域防災計画では、大規模災害発生時に東板橋体育館は自衛隊の宿泊拠点となる予定だが、地域住民も利用できる災害時対応トイレの設置も検討いただきたい。	マンホールトイレなどの災害時用トイレについては、東板橋体育館に近接し、災害時の区の避難所に指定されている金沢小学校にも一定数備蓄しているため、今後、地域における必要数を勘案しながら、東板橋体育館における設置や備蓄について検討を進めていきます。
3	区が計画している野口研究所跡地の展示機能と東板橋体育館や植村冒険館の展示機能の見直しを行い、加賀地区内の各集客施設を連携させるようにお考えいただきたい。	加賀地区内にある東板橋体育館の周辺地域は、整備を計画している野口研究所跡地施設のほか、東板橋公園や東板橋図書館など、魅力ある施設が集中しているエリアだと認識しています。今後、そうした各施設が緑や歴史といった共通のテーマ性を持ち、一体感のあるエリアとなるよう連携を強化していきたいと考えています。
4	緑を楽しみながら、様々な年代の方が集い、互いに交流できるコミュニティスペースとして、カフェを併設してほしい。	改修基本計画では、改修後に整備されるべき新たな機能のひとつとして、カフェの併設について検討を進めているところです。もし実現すれば、近隣の皆様に憩いとコミュニティを提供する場となると考えています。
5	スポーツ施設をより良くし、体育館としての機能を高め、アスリートを目指す将来のある子どもたちも含め、利用しやすい体育館となしてほしい。	今回の改修基本計画には、室内競技場やプールなどの体育施設・設備の更新も含まれています。更新にあたっては、競技者の皆様に満足いただけるよう、アリーナ床面改修、トレーニングルームの拡張、スタジオの防音対策など、施設の機能向上を図っていきたいと考えています。

No	意見の概要	区の考え方
6	<p>植村冒険館は、単なる展示では意味がないと思う。植村直己本人の思いや努力といったものを子供たちが体で学べるような施設になれば良いと思う。</p>	<p>改修基本計画では、植村冒険館がどのような形で東板橋体育館と複合化するか、そのレイアウトや基本的な展示の方針についての区の考え方をお示しします。植村冒険館の展示については、改修基本計画を策定した後、その方針に基づき、体験型展示などの具体的な内容を検討していきます。</p>
7	<p>災害時、体育館は一時避難所となる可能性があり、必要最低限の環境確保が必要である。公共施設で設備更新する建物には、停電時でも空調運転が可能で、発電した電力により最低限の電力供給可能な発電機能付自立型空調機の導入を推奨する。</p>	<p>東板橋体育館のような地域体育館は、災害時に一時的に防災拠点として使用することから、非常用電源などの災害に対応した設備を整備する必要があると認識しています。そうした設備関係の導入については、今後、設計の段階で詳細に検討していく予定です。</p>